

「昔に学び、命を守る」

地震は突然やって来ます。僕は「弟のおかげ」を読んで地震の怖さや地震が来た時にどう対処したらいいかを考えました。この話から学んだことが三つあります。

一つ目は、家族で協力することの大切さです。この家族は津波が来るという弟の知らせからすぐに準備して逃げることができました。それは普段から家族で避難場所や食料などの準備物について話し合っていたからだと思います。僕の家では、缶詰やライト、飲み物等災害時に必要な物については倉庫に備えていますが、避難場所や非常持出袋、役割等については十分に話し合えていないので、しっかり時間を取って話し合いたいです。

二つ目は、あせらないことです。この話に出てきた弟は、地震が起きてもあせらずに落ち着いて行動していました。僕だったらあせって失敗することがあると思うので、日頃から避難訓練に真剣に取り組むことで、落ち着いて行動できるようになりたいです。

三つ目は、情報を得ることです。弟のように窓から様子を見たり、テレビやラジオを聞いたりして情報を得たいです。情報がないと津波が来ていることや土砂崩れでどこが通れなくなっているかなどがわからないので、上手に避難ができません。情報を得ることはとても大切だと思いました。

この三つのことを意識して、地震が来ても対処したいと思いました。また、この話に出てくる弟の行動にも心を打たれました。この弟は、自分だけが助かるのではなくて、家族はもちろん、近所の人たちにも「津波が来るぞ。」と声をかけていました。その結果、たくさんの人の命が助かったので、カッコいいなあと思いました。僕も自分のことだけではなくて周りの人のことも考えて行動できるようになりたいです。

地震などの災害は起きてほしくはありませんが、起きることを考えて、すぐに避難できるように日頃から備えたいと思います。